

第4回あいち教育賞入賞者（最優秀賞・優秀賞）

【実践研究部門（学びのフロンティア）】

《最優秀賞》

算数科授業に対する学習観の転換をめざす試み

ー非認知能力に着目した教師支援を通してー

豊田市立^{すえの}寿恵野小学校 加藤 ^{かとう こうじ}孝児

〈短評〉

結果重視のある子どもたちの学習観を思考過程重視へと転換させることを目的とした実践である。引き出したい子どもの非認知能力をキャラクター化することや、子どもの発言に対する「問い返し発問」など、工夫を凝らした取組が見られた。特に、非認知能力ごとに整理・体系化された「問い返し発問」は、汎用性が高く評価できる。

《優秀賞》 （順不同）

対話的・協働的な学びを通して、生活をよりよくする児童の育成

～小学6年家庭科中核的な概念を「手料理を“ふるまう”」とした実践を通して～

岩倉市立^{ごじょうがわ}五条川小学校 小林 ^{こばやし ふみか}史佳

〈短評〉

家庭科の中核的な概念「ふるまう」を授業に取り入れ、他者のために調理実習を行う実践である。1年生のペア児童に料理をふるまうことを目標とし、その必要性を実感する導入、相手の好みを探るインタビュー、目的に沿った献立づくり、調理以外の「ふるまう」方法も考える調理計画等の手だてを講じた。相手のために調理する喜びや達成感を得て、教科の学びを深めていく点が、従来の調理実習では見られない先進性の高い実践として評価できる。

特別な教育的ニーズのある児童を含む全ての児童への支援:10年間の実践
ー特別支援教育校内支援体制を土台としたスクールワイドSST
「にこにこタイム」と取り出し学習支援「ぐんぐんタイム」の取組を通してー

春日井市立西山にしやま小学校

〈短評〉

特別支援教育における校内支援体制を土台とし、行動面と学習面の両面から児童の支援を行ってきた実践である。行動面の支援によって、抽出児童や周りの児童の人間関係が安定する様子や、学習面の支援によって、抽出児童が基礎的な学力を身に付ける様子が、丁寧に検証されている。特別支援教育における多層支援モデルを学校全体に拡大し、全職員での支援体制を構築し、10年間に渡って実践を積み重ね、成果が得られた点は高く評価できる。

【教育研究論文部門】

《最優秀賞》

身近な環境に主体的に関わり、よりよい環境について考え、行動できる子供の育成
5年 総合的な学習の時間「守ろう！野鳥のすむ町生平～男川環境プロジェクト～」
の実践を通して

岡崎市立福岡ふくおか小学校 杉本すぎもと 智恵ともえ

〈短評〉

学区の野鳥を手がかりに河川環境の変化を考え、保全の在り方を多面的に探究した実践である。専門家の聞き取りや理科の学習を活用し、教科横断的な学びを実現している。抽出児童が課題を自分事として捉え、主体的に他者と協働しながら考えを深めていく様子が具体的に記述されている。仮説や手だてを資料に基づき丁寧に検証されており、論旨の一貫性と説得力も高い。身近な自然環境を題材に、子どもの学びに寄り添った工夫が有効に機能している点も高く評価できる。

《優秀賞》 （順不同）

主体的に問題解決に取り組み、よりよい解決方法について考え表現できる生徒の育成
—中3技術、段階的に難易度を高めた計測・制御のプログラミング学習を通して—

春日井市立松原まつばら中学校 國立こくりゅう 愛子あいこ

〈短評〉

中学校技術科のプログラミング学習において、自動車の安全技術を題材として導入し、段階的な指導によって生徒の苦手意識を克服し、主体的な問題解決を促す有効性を検証した実践である。身近で興味を引く題材を活用し、難易度を考慮した計画的な授業設計により、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した教育活動を展開している点が高く評価できる。

地学分野において実感を伴った理解を促し、学びの有用感を育む理科授業を目指して
－ 6年「躍動する大地の秘密を探る！」（土地のつくりと変化）の実践を通して－

刈谷市立富士松北小学校 むらまつ 村松 ともかず 友和

〈短評〉

本実践は、教科書内容を再構成して単元を貫く課題を設定し、地域の地質特性を生かした教材提示や三つのモデル実験の工夫によって、児童が身近な現象について実感を伴って理解できるようにした点が優れている。実際の地震・噴火事例を取り入れた手だては、学びの有用性を実感させ、「自然災害を自分事として捉える」児童の変容を確かに導いており、高く評価できる。

主体的に学びに向かい、考え続ける生徒の育成

～中学1年 理科「家族全員の全身が映る鏡を考えよう」の実践を通して～

知立市立竜北中学校 りゅうほく 山口 やまぐち 弘美 ひろみ

〈短評〉

生徒の探究心を育むことをねらいとした実践である。所属校を「ファミリー」と見立てた題材設定により、身近な事象を自分事として捉え、調べたいという意識が生まれている。実験と考察を通して生徒の誤った理解が適切な方向に変容する過程が丁寧に示され、生徒の姿から手だての有効性が確かめられている。単元後も新たな疑問をもち粘り強く思考する生徒の姿が描かれており、生徒の主体性を伸長していることも高く評価できる。